

静岡の貝類
カメガイの仲間
高山壽彦

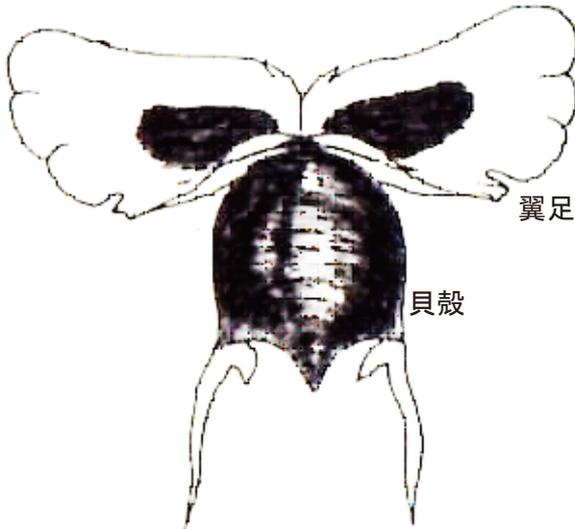


図1. チョウの翅のように足を広げて泳ぐクリロカメガイ
添付図の出典：原色・自然の手帖「日本の貝」
奥谷喬司・竹村嘉夫（1967）、講談社

海生貝類の多くは、幼生時には海水中を漂う生活（つまり浮游生活）を送るものの、成長とともに海底で生きる生活（底生生活）に移ります。

ところが、カメガイの仲間は成体になっても浮游生活を続け、その一生を海流にのって生活します。浮游生活を送るには貝殻の軽量化が重要で、そのためカメガイの仲間の貝殻はたいへん薄くきゃしゃで、なかには殻が消失しているものもあります。「海の妖精」としてテレビや水族館でもよく紹介される人気のクリオネ（属名 *Clione*）は、実は貝殻をなくしたカメガイの仲間で、その和名はハダカカメガイ（*Clione limacina limacina*）です。

また、カメガイの仲間の足は図1のようにチョウの翅のような形となっていて、ひらひらと泳ぐことができます。このため、翼足類とも呼ばれます。ただし泳ぐ力は弱いので、海流に流されながら沖合を漂っており、なかなか海岸では見つけられません。しかし、海が荒れた後には、波で打ち上げられたものが海岸で見られることもあります。三保の海岸

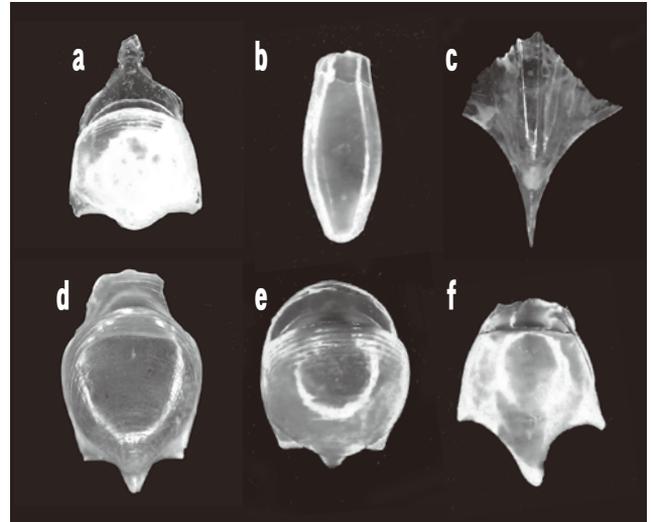


図2. 三保の海岸に漂着したカメガイの仲間
a: ササノツユ, b: ウキヅツ, c: ウキビシ
d: シロカメガイ e: マルカメガイ f: マサコカメガイ

でも何種類かのカメガイの仲間を拾うことができます（図2）。また、駿河湾のシラス漁でもカメガイの仲間の殻が混じってとれることがあり、吉田漁港での「チリメンモンスター探し」の中で、見つかったこともあるようです。

また翼足は泳ぐためだけでなく、食事にも用いられることがあります。翼足に生えている繊毛の運動により、海水中に浮游している珪藻類などを集めて餌とするのです。なお、殻を持たないハダカカメガイの仲間は、この翼足を使い他の浮游動物を襲う、肉食動物です。

一方、翼足類自身はカワハギやサケ、マグロなどに大量に食べられていることもあるそうです。翼足類は海域の一部で大量に出現することもあり、このように水産資源となる魚類までつながる海洋の食物環の中で重要な位置も占めています。なお深海底には、カメガイの仲間の死殻が莫大な量で堆積し、「翼足類軟泥」を形成しているところがあります。地球の表面を覆う堆積物としても翼足類は無視できない存在なのです。